

# 最近の「本部」土屋一派のジリ貧状況

## 日刊 動労千葉

81.9.4

No.837

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・八公衆）四三二七二〇七

### 「本部」反動分子を一掃・追放し、動労大改革へ

最近の動労「本部」反動分子と裏切り分子土屋粹一派のジリ貧状況は、目に見えて進行している。

「6・12津田沼事件」デッチ上げ告訴・告発という労働組合にあるまじき行為を行なったことで、動労「本部」土屋一派は、各支部・職場で完全に追いつめられ、逃げ廻っている。われわれは、路線的・運動的にますます腐敗・墮落・屈服しつつある「本部」反動分子をさらに追いつめ、一掃・追放し、動労大改革運動をより一層推進しなければならぬ。

#### 確実に減少しつつある「本部」派

佐倉

「本部」派最大の「拠点」である佐倉支部の今日の状況に端的に現われているように「本部」土屋粹一派は、この先一年間で二十名弱の組合員が確実に減少する情勢にある。

佐倉では、すでに、九月一日付で他局からの短期転勤者五名が門司・広島局などへ帰任した。そして、一ヶ月後の十月一日には、かの革マル分子・小川建二をはじめ約五名が帰任していくのである。さらに、来年三月末には、デッチ上げ「地本」委員長の山下庄一郎をはじめ、六名の退職予定者がいるのである。

従って、当初佐倉における乗務員のみ勢力分野においては、「本部」派が動労千葉を若干上廻っていたのであったが、（他の職種においては、「本部」派が全くのゼロ、ないしは、一・二名という状況である）「本部」派の完全なジリ貧状況の中で、すでに九月二日現在を比較してみても、動労千葉の組合員数が「本部」派を上廻るといいう状況になっているのである。

彼らは、去る八月二一、二二日、デッチ上げ「第三十三回地本大会」を開催し、「いまや、わが千葉地本は、四支部一四〇名の組織として堂々と鉄輪旗を翻えている」などとさげんでいるのは裏はらに彼らの最大の「拠点」佐倉において完全なジリ貧状況におちいつているのである。

#### 告訴路線と職場規律の厳正を卒先して、推進する革マル分子・嶋田・津田沼

一方、津田沼においては、「6・12事件」デッチ上げ、告訴・告発の張本人・転び屋・革マル分子・嶋田誠は、今やマル生分子としてのその本性をむき出しにしている。嶋田誠は、現在、毎日出勤してから退区するまでの間、六名の当局・管理者に守られ、当局の狙う「職場規律の厳正」を自

ら実践するマル生分子としてふるまっているのである。勤務時間内は、絶対に検修詰所には行かず、当局管理者に守られて作業をし、手待ち時間には必ず「検修当直室」で管理者に守られているのである。このように当局管理者に手厚く守られている革マル分子嶋田誠とは裏腹に、裏切り分子板倉については、当局から全く無視され、放置されているのである。従って毎日板倉は、休けい時間、昼休み時間などは、動労千葉や国労組合員からの追及をのがれるために、電車区内に留置してある電車の中を渡り歩き、完全に逃げ廻っていてどこにいてもかさえわかない始末である。

さらに、小野に至っては、すでに約一ヶ月半の長期にわたって「病欠」をきめ込み、さらに九月末までの「病欠届」を出しているのである。このように、「本部」派にとつての動労千葉破壊の先兵であり、「拠点」であるはずの津田沼において転び屋・革マル分子嶋田誠をはじめとする裏切り分子は消耗と逃亡の毎日をすごし「労働組合活動」などといえる状態には全くないのである。

#### 「本部」土屋一派追放・一掃・動労大改革へ

デッチ上げ「6・12津田沼事件」告訴・告発に對しわが動労千葉をはじめ全国の闘う労働者・人民からの激しい糾弾の前に動労「本部」反動分子がこの自らの犯した反労働者の行為について居直っているのとは逆に、津田沼・佐倉などの「拠点」組合員は、消耗しきり、逃げ廻っている。われわれは、動労「本部」反動分子のその反動性をますます満天下に暴き出し、ますます孤立させ、動労から追放・一掃し、動労の戦闘的伝統を復活させる動労大改革運動を、今こそ強力に推進しなければならない。